

はちがた地区社会福祉協議会  
(略称) はちふく会



# はちふくだより

題字 小幡 静子

## 第61号

発行：はちがた地区社会福祉協議会  
所在地：鹿嶋市鉢形台3-15-1  
鉢形まちづくりセンター内  
(鉢形公民館)

TEL: 90-3430  
FAX: 90-3431

発行責任者：榎本 几久

発行・編集：はちふく情報たい



### 令和4年度をふり返って

#### はちふく会会長 榎本几久

新型コロナウイルス感染症から3年目を迎えました。令和4年度のはちふく会の活動は、  
(1)読み聞かせ活動は鉢形小学校一年生と二年生の児童を対象に実施出来て良かったです。  
(2)はちふくパトロールは、月2回ですが、一斉下校や雨天により中止が多かったです。  
(3)一人暮らしの高齢者に宅配弁当を3回実施しましたが、新型コロナウイルス感染症防止の為、手作り弁当はできませんでした。  
食事会の予定は1回でしたが中止となり、市販の弁当の宅配としました。今回配ったお弁当は好評でした。  
(4)交流会活動は、鉢形小学校の児童と、ポッチャ交流会が2回あり好評でした。昔遊び交流会では、「こま回し、かるたとり、けん玉、ダルマ落とし、お手玉、あやとり等」楽しく交流ができたというお手紙が多かったです。  
最後に令和4年度、第42回市内福祉作文の表彰式が2月4日にあり鉢形小学校から3名の児童が優秀賞に選ばれました。おめでとございました。鉢形地区社会福祉協議会として、お互いに支え合える地域づくりをめざしています。

はちがたまつりバザー収益金9,200円は歳末助け合いに募金しました。ありがとうございました。  
今後とも皆様の御協力を、よろしくお願ひします。



鉢形小4年生との交流会「ポッチャ」

### 宅配弁当

#### 平山英夫

私は鉢形区担当で、11名の方々に弁当を届けに行きました。今回の弁当は何種類もおかずがメインの弁当だったので、見た目もおいしそうで皆さん非常に喜んで頂きましたが、一人だけ忘れてしまった方がおられました。後から福祉委員さんが再訪問しましたが、帰宅しておらず、残念でした。他地区を配った民生委員の方も、忘れていた方が何人もいましたが、家に居てくれたので助かったと言っていました。  
高齢なので、度忘れは仕方がないと思いつつ、皆で反省会をしました。次回からは前日に電話をして、連絡してあげたらどうかと言う意見がありました。

これからも年々高齢者が増えてきますが、弁当を配った時の笑顔を見ると、私達もうれしくなります。  
配達する私達も段々と年老いて来ますが、身体の続く限り、皆さんの笑顔を糧に頑張っていきたいと思えます。地区の皆さん、いつまでもお元気で、楽しく過ごせる様に願っています。



### 昔あそびをたのしんで

#### 小田一郎

1月28日に、鉢形小学校1年生の児童と地域のときめき学級の高齢者18名は、1年生の教室で昔遊びをして楽しい時間を過ごしました。  
こま回し、ダルマ落とし、けん玉、かるたとり等の遊びを楽しみました。  
遊びでは、出来るまでやる児童や、すぐ出来てしまう児童と色々でした。見ていると、一通りやってみて、そのあと、興味のある遊びを集中してやりました。これから成長して行くなかで、色々なものに挑戦し、自分の好きな物ややりたい事を見つけていくのではないのでしょうか。

今思えば、私たちもこのような子どもの時の遊びを通して友だちとの友情を育み、繰り返して学ぶこと等、大人への成長の方法を学ぶことができたと思います。  
孫のような存在である児童との遊びの中で、自分が子どもの頃、友人達と遊んだ思い出がよみがえり、懐かしさを感じました。また児童と遊ぶ事により元気をいただきました。



お手玉面白いね



ダルマ落としうまくできたかな



昔あそびおもしろかったかな

### 令和4年度2回目の「はちふく支え合い会議」開催(2月26日)

#### 山本安生

今回の会議の出席者は、はちふく会の役員・運営委員、小学校、かしま東地域包括支援センターの担当者など17名でした。  
まず、「地区内の各組織活動の報告」として、新型コロナウイルスの感染拡大の中でも、昨年後半から少しずつ活動が再開されている、多くの人たちの協力で行き渡った子どもと高齢者のふれあい活動や、高齢者の見守りの中から要望が出た高齢者助け合い活動などがありました。

他地区の支え合い活動について、社会福祉協議会事務局から、市内のほとんどの地区が支え合い会議をもっており、その地区で必要なことについて話し合い、活動しているさまざまな事例が紹介されました。そして、このような活動をやっていく中で、高齢化や参加者の減少があっても、呼びかけし、活動を続ける、交流のきっかけを作ることなどが大切だということです。

今年度から始まった「鉢形地区支え合い活動」は、高齢者の支え合いを目的とした18件の報告でした。  
最後に、榎本会長から、来年度は鹿嶋市の協力をえて「認知症の人への対応の仕方について」認知症サポーター養成講座を開きたいと意見表明があり、会議を閉じました。



### 児童生徒福祉作文紹介

今年度の第42回を迎えた児童生徒福祉作文には、合わせて一、二九二編の応募があり、鉢形小学校からは3名(一年生2名・五年生1名)が優秀賞に入選されました。おめでとうございます。

### 「バリアフリー」ってなに

一年 城内史也

ぼくは、「バリアフリー」ということばをしませんでした。

それがきになったのは、なつやすみにかぞくでかけ、トイレにいったときでした。トイレのつうろがひろくてたいらで、かべにはでつかめるぼうがついていることにきがつきました。ふつうのトイレとはべつに、おおきな入りぐちのトイレもありました。

そのことを、おとうさんにきいてみたら、「バリアフリー」ということばができました。

トイレのつうろは、からだのふじゆうなひとや、くるまいすのひとがつかいやすいようにひろくてたいらになっていること、かべについているぼうは「てすり」といって、てすりにつかまりながら、ころばずあんぜんにあるけるようにするためにしていること、おおいトイレは、あかちゃんのオムツをかえたり、からだのふじゆうなひとがつかったりするのだと、わかりやすくおしえてくれました。

ぼくは、げんきでからだもじゆうにうごかせるけれど、からだかふじゆうなひとやおとしより、おなかにあかちゃんがいるひとたちには、トイレに行くことも、とてもたいへんなことなんだとりました。

そして、いろいろなひとがこまらないで、あんしんで、あんぜんにつかえて、えがおになることが、「バリアフリー」なんだとおもいました。

はじめてのなつやすみに、とてもたいせつなことにきがつけてよかったです。これから、こまっっているひとをみかけたら、「だいじょうぶですか。」「おてつだいすることはありますか。」「じぶんからこえをかけて、たすけてあげたいです。」

### バリアフリー?



### みんながえがおになるくらい

一年 平野香乃実

わたしは、みんながえがおになるために、こまっっている人がいたらしんせつにしたいとおもっています。

ともだちがべんきようがむずかしくてこまっっていたときは、やりかたをおしえてあげました。ともだちは、「ありがとう。」「と、えがおになり、わたしもうれしくなりました。

なっているともだちには、「どうしたの。だいじょうぶ。」「と、こえをかけました。かなしいときはだれかがそばにいてくれたら、ひとりぼっちじゃないとおもえてえがおになるとおもいます。

おかあさんはたいちようがわるくてねているときは、いつものえがおがありません。おかあさんがつらいことがわたしにもつたわってきました。だから、おなかをなでてあげました。そしたら、おかあさんがえがおになりました。わたしはとてもあんしんしました。わたしがおかあさんのおなかをなでてあためてあげると、おかあさんはからだもころもあたたかくなるそうです。わたしもあたたかきもちになって、えがおになりました。

しんせつにすると、みんなもわたしもえがおになります。

もし、こまっっている人がいることにだれもきがかないままでしたら、一人ですつとつらいおもいをしているかもしれせん。

だからわたしは、まわりをよくみて、こまっっている人にきがつけるようにしたいです。そして、げんきになれるように、そばにいて力になってあげたいです。

たいせつな人みんながえがおでくらすたら、とてもしあわせです。



みんな笑顔に

### 私ができること

五年 大竹澤羽

私には、三つ下の妹がいる。妹はかわいい。かわいけど、わがままで、好き放題やっていて、よく笑って、よく泣いている。私は妹と一緒にいることが多い。だから、妹が考えていることがよく分かるし、妹もわたしの事をよく分かっている。分かつているからケンカにならないと思うのに、分かつてしまうからケンカをしてしまう。でも妹はかわいいし、ずっと一緒にいたいと思える大切な存在だ。

そんな妹は、私が困っていると、「どう、ダメそう。」「と聞いてくる。母は、「大丈夫。」「と聞いてくる。大丈夫と聞かれると、私は、「うん。」「と言ってしま。でも本当は、大丈夫ではないのだ。妹からダメそうと言われると、「ダメなの」と答えることができる。けれど、母の聞き方だと「うん、大丈夫」と答えてしま。失敗して、おこられてしまう。母にこの話をしたら、母は妹に、「どうしてそんな聞き方をしているの。」「と聞いていた。妹は、「みおはは、大丈夫って聞かれると、うんって言うっちゃうんだよね。」「と言ってた。「あーちゃん(妹)とみおはの絆には、かなわないわ。お母さんの思いやりがちよつと足りなかったね。ごめん、ごめん。」「と書いていた。

私は、自分から話しかけることが苦手だ。声をかけたくても、きん張してしま。そんなとき、いつも妹は声をかけてくれる。私も妹のように相手を思いやった声かけができれば、多くの人がより安心して生活することができるとも、私ができること。二つ目は、自分から助けを求めることだ。私は、困ったときに強がってしま。けれど、困っていること相手に伝えた方が、みんなも私に声をかけやすくなると思う。だから困った時は自分から勇気を出して「助けて」と言えるようにしたい。

私が、できそうなことを取り組んでいくことで、身近な人がより安心して、笑つてくらするのではないかと思う。

### 「ボランティア活動を通して」五十嵐榮子(鉢形北区)

私が、ボランティア活動に参加したのは、今から26年前、一人暮らしの方への食事サービス「すみれ会」としてスタートしたのが始まりで、現在に至っています。小学生との交流会・お花見会・演芸会・宅配サービス・旬の素材を使つての食事作りなど工夫を凝らして実施してきました。

ボランティア活動に関わって、今でも忘れられない出来事が2つあります。ひとつは2011年3月東日本大震災です。公民館に200人以上が避難してきました。人生で始めて3交替を経験し、その対応に苦労したことを今でもはつきりと覚えています。その時に「近所との係わりや絆の大切さを実感しました。諺に「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とありますが、決して忘

れてはいけないし、後世に伝えていかなければならない義務だと思っています。もうひとつは、翌年の私にとって最大の出来事、最愛の息子を事故で亡くしたことでした。10日間の壮絶な入院生活を送り、帰らぬ人となりました。まさかのことで私の人生も様変わりしました。「命は一つ」、大切に生きなければと実感しました。

あれから10年以上が経過し、世の中も大分変化してきました。これから先も、私なりにボランティア仲間と「無理せず、出来ることを楽しく」をモットーに地域の方々や一人暮らしの方との関わりを大切にして、ボランティア活動を続けていこうと思えます。



次回は高尾崎区の伊豆祐哉さんへバトン通信です。

### お知らせ

- 今後の予定
  - はちふく会運営委員会 4月開催予定
  - はちふく会支援者会議 5月開催予定



### ※編集後記※

早いもので令和4年度も終わり、新年度を迎えようとしています。コロナ感染症もようやく落ち着いてきました。令和5年度は以前のような普通の日常生活が戻ってくることを願っています。はちふく会の活動も、見直しながら活動できればと思います。

(T.O)



私ができることは？  
自分から声掛け・助けを求めること!?